

—スタッフ紹介—

役 職	スタッフ名
理 事 兼副病院長兼臨床研修センター長 兼血液内科主任部長兼薬剤部門長 兼薬剤管理センター長	鳥野 隆博
部 長 兼輸血・細胞治療センター長	安見 正人
部 長	釜江 剛
医 員	上條 公守
非常勤医員	白石 貫馬(7月退職)

—概要—

当院は日本血液学会認定血液研修施設であり、これまでに造血幹細胞移植療法を含め、積極的に治療を目指した治療を行ってきた。自己末梢血幹細胞移植、血縁者間造血幹細胞移植の他、日本臍帯血バンクおよび日本骨髄バンクを介した造血幹細胞移植が施行可能な認定施設であり、1991年から2009年までに施行したすべての移植患者数は319名である。2009年以降、常勤医師の減少により移植医療を休止していたが、2015年度からスタッフが確保されたことから移植医療を再開した。精力的に同種幹細胞移植を行い、2016年5月骨髄バンクからの非血縁者間造血幹細胞移植認定施設となった。2022年は同種造血幹細胞移植：12例、自家幹細胞移植：5例と精力的に行った。また2022年9月には同種移植が可能なクラス100の無菌室が2床となり、今後のさらなる移植数の増加に対応可能となっている。移植医療などの治療におけるレベルアップのみならず、泉州二次医療圏内における血液疾患に対する医療のレベルアップ・二次医療圏内での治療の完結を目標に、造血幹細胞治療における他病院との連携を継続している。

このように治療を目指した積極的治療に関しては拡充してきた一方で、これら以外の生活の質を重視した化学療法や輸血療法など患者の満足度を重視した、患者の状況に応じた診療を行った。

(診療体制)

血液専門医の常勤医4人(その内日本造血・免疫細胞療法学会認定医3名)で外来診療を担当し、地域の医療機関からの紹介患者の診療や外来化学療法、輸血療法など多くの患者の診療にあたっている。このように医療体制および診療体制が整ったことで近隣からの紹介患者も増加している。この他、他科からの止血異常や化学療法の合併症等に関するコンサルトにも随時対応した。

入院診療は常勤医4人の他、白石医師を加えた5名で担

当した。20床の割り当て病床で稼働しているが、患者数の増加に伴い常時20床を超え、延べ患者数は312名であった。臨床研究・教育にも力を入れ、9演題の学会発表を行い、1本の英文原著論文が掲載された。

—実績—

2022年1月～2022年12月の新規血液疾患患者：164人

悪性リンパ腫、形質細胞性疾患	
非ホジキンリンパ腫	41
ホジキンリンパ腫	4
成人T細胞性白血病/リンパ腫	6
多発性骨髄腫	10
急性白血病とその類縁疾患・慢性白血病	
急性骨髄性白血病	9
急性リンパ性白血病	1
慢性骨髄性白血病	5
慢性リンパ性白血病	0
骨髄異形成症候群	24
骨髄増殖性腫瘍	14
良性疾患、その他の疾患	
特発性血小板減少性紫斑病	15
その他	35

2022年4月～2023年3月の入院患者

各疾患のべ患者数：312人

悪性リンパ腫、形質細胞性疾患	
非ホジキンリンパ腫	105
ホジキンリンパ腫	10
成人T細胞性白血病/リンパ腫	13
多発性骨髄腫	25
急性白血病とその類縁疾患・慢性白血病	
急性骨髄性白血病	66
急性リンパ性白血病	9
慢性骨髄性白血病	9
骨髄異形成症候群	24
骨髄増殖性腫瘍	6
良性疾患、その他の疾患	
特発性血小板減少性紫斑病	5
再生不良性貧血	3
その他	37

—今年度の成果と反省点—

2022年度はCOVID-19の影響下であったが外来初診患者が280名と例年より増加した。2022年8月から9月に同種移植可能なクラス100の無菌室増床工事を行ったため、急性白血病の緊急入院に対応できず、他院に治療を依頼せざるをえなかった患者も数例いた。

—来年度への抱負—

1. 患者の確保・造血幹細胞移植術の増加
2. 在院日数の短縮
3. 研修医を含めた若手医師への教育